

自立活動学習指導案

自閉症・情緒障害特別支援学級 7名 指導者 別府 亮太

本授業は、以下の検証を行うものである。

自他の課題の自覚化と共感のために、タブレット端末を用いて課題と経験を結び付けた話し合いをしたり、OPPシートによる振り返りを重ねたりすることは、あさひ子学級における「自ら学ぶ子供」を育成するための手立てとして有効であったか。

1 活動 じぶんけんきゅう～分せき！私のふしぎ調査班～

2 目標

自他の特性や学習上及び生活上の課題を見つめ、自分のよさや表出する問題行動を自覚したり他者の課題に共感したりする活動を通して、課題を改善・克服したいという思いをもち、主体的に自己分析をすることができるようにする。

3 評価規準

心理的な安定	人間関係の形成	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分を落ち着かせることができる方法を考え、周囲の人と一緒に情緒の安定を図ることができる。2-(1) ○ 経験したことを他の場面にも結び付けながら、環境や状況の変化に対して、落ち着いて対応することができる。2-(2) ○ 自ら方法を工夫しながら、学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとすることができる。2-(3) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉や表情等から相手の意図や感情を読み取り、その場に応じた適切な行動をとることができる。3-(2) ○ 集団の中で、状況に応じて自ら適切な行動を選択したり調整したりすることができる。3-(3) ○ 手順やきまりを理解して、遊びや集団での活動に協調的に参加することができる。3-(4) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手の立場に合わせた言葉遣いや場に応じた声の大きさなど、場面にふさわしい表現を自己選択し、主体的にコミュニケーションを図ることができる。6-(5)

4 活動について

(1) 活動の位置とねらい

対象となる子供7名は、これまでに心理的な安定や人間関係の形成、コミュニケーションについて自立活動を重ね、相手や場面に応じて適切な表現や行動をとることを学習し、自分の課題を認識する経験をしている。中には、自分の課題を自覚しつつある子供もいる。しかし、実生活では、他者とのかかわりにおいて自分の意思や要求、感情をうまく言葉や態度で表現したり、相手の意図や感情を読み取り、行動を調整しながらやり取りしたりすることが難しい場合がある。また、感情をコントロールして情緒の安定を図ることに課題を抱えている子供も多い。

そこで、本活動では、学校生活における問題場面を基に自他の認識を比較し、自己の特性を自覚したり、他者の考えに共感したりすることができるようにする。子供たちはそれぞれ異なる学級に所属しているが、類似する課題のある子供同士で小集団を構成することで、他者とかかわりながら自他の課題に気付き、改善・克服しようとする意欲をもつことができるようにしたい。

この活動は、自他の問題行動の原因や対処方法を追究する自立活動「じぶんけんきゅう～『こまっていること』かいけつします～」につながるものである。

(2) 子供の実態

	心理的な安定	人間関係の形成	コミュニケーション
A(3年)	思いどおりにいかないときに、他者からの支援を受け入れることが難しいが、課題の改善に意欲的である。	手順やきまりは理解できるが、集団での活動に協調的に参加することが難しい。	意思や要求、感情を伝えることはできるが、意図を理解して受け止めることがやや難しい。
B(4年)	自分を落ち着かせる方法がある程度考えることができるが、実際の状況に合わせて使いこなすことが難しい。課題の改善に意欲的である。	言葉や表情等を手掛かりに相手の気持ちに気付くことがやや難しい。手順やきまりは理解できるが、集団での活動に協調的に参加することが難しい。	意思や要求、感情を積極的に伝えることはできるが、相手の気持ちや考えを受け止めながら会話をすることが難しく、一方的である。
C(4年)	関心の高い事柄があると情緒が不安定になり、感情のコントロールが難しく、初めての環境に不安を感じやすい。	集団の中で、状況に応じて、適切な行動を選択したり調整したりすることがやや難しい。	意思や要求、感情を伝えることはできるが、周囲の状況への配慮がやや難しい。
D(4年)	必要に応じて、援助を求めながら、自分で情緒の安定を図ることができる。状況の変化に不安を感じやすい。	集団の中で、状況に応じて、適切な行動を選択したり調整したりすることが難しい。	慣れた集団においては、周囲の状況や他者の感情に配慮しながら自分の意思や要求、感情を適切に伝えることができる。
E(5年)	初めてのことで不安なく対応することができるが、経験したことを他の場面に結び付けることが難しい。	手順やきまりは理解できるが、集団での活動に協調的に参加することが難しい。	慣れた集団においては、周囲の状況や他者の感情に配慮しながら自分の意思や要求、感情を適切に伝えることができる。
F(5年)	思いどおりにいかないときに、気持ちを落ち着かせたり、適切な方法で表現したりすることが難しい。	手順やきまりは理解できるが、集団での活動に協調的に参加することが難しい。	意思や要求、感情を積極的に伝えることができるが、相手の意図を受け止めないで自分の思いを伝えることがある。
G(5年)	どんな活動にも落ち着いて取り組むことができるが、集中を持続させることが難しい。	言葉や表情等を手掛かりに相手の気持ちに気付いたり、手順やきまりを理解して、集団での活動に協調的に参加したりすることがやや難しい。	慣れた集団においては、周囲の状況や他者の感情に配慮しながら自分の意思や要求、感情を適切に伝えることができる。

(3) 指導上の留意点

本活動を行うに当たり、子供たちは、前活動「じぶんけんきゅう～じぶんを知ろう～」において、自分や回りの環境を見つめ、どのような自分でありたいのかを教師と共に考える活動を行っている。そうすることで、自ら目標をもち、主体的に自立活動に参加することができるようになる。また、自分の学習状況や学習内容を振り返る場面では、OPPシートを活用し、自分や友達の成長や変容を認め合うことで、自他を肯定的に評価したり、自己効力感を高めたりすることができるようにする。

「つかむ・見通す」過程では、自分の回りの人的環境や自分の考えについて語り合うことで、自分の意見を受け止めてもらえる経験を味わうとともに、自他の存在を肯定的に捉えながら、更に自分自身のことを知りたいという思いを高めることができるようにする。

「見つめる・活動する」過程では、まず、好きなことや得意なことなどの特長を教師や友達と語り合うことで、自己肯定感を高めることができるようにする。さらに、特長をキャラクター化（外在化）することで、自分を客観的に捉えることができるようにする。次に、個々の特性から生じる問題行動を「困っていること」と捉え、キャラクター化（外在化）することで、問題行動や特性を子供自身の問題ではなく、本人の外にあるものとして考えられるようにする。

「振り返る・生かす」過程では、自己分析の結果を教師や友達と発表し合うことで、自他の課題の原因や改善方法を主体的に追究しようとする意欲を高めたい。

5 指導計画（総時数 8 時間）

過程	主な学習活動	時間
つかむ・見通す	1 「サイコロジーゲーム」によって、自分の回りの環境や内面を対話で表現し、教師や類似課題をもつ友達と共有する。	1
	2 チェックリストや教師との対話を基に、「分せきシート」に自己分析を書き込んでいくことによって、自分自身を俯瞰で捉える。	1
	3 学校生活で自分の言動についての気づきを「私のふしぎメモ」に記録する。（時間配当なし）	
見つめる・活動する	4 自分の経験や特長を基に自他の認識を比較し、自己の特性を自覚したり他者の考えに共感したりする。	1
	5 教師や友達と対話する中で、自分のよさ、得意なこと、気持ちを安定させることができること等を分析し、キャラクター化する。（タイプ、名前、特徴、いつ、どんな時に、何をする等）	1
	6 学校生活における問題場面を基に自他の認識を比較し、自己の特性を自覚したり他者の考えに共感したりする。	1 (本時)
	7 教師や友達と対話する中で、自分の困っていること、苦手なこと、変わりたいと思っていること等を分析し、キャラクター化する。（タイプ、名前、特徴、いつ、どんな時に、何をする等）	1
振り返る・生かす	8 「分せきシート」を基に、自分のよさや困っていることを発表し、友達と共有する。	2

6 本時（5 / 8）

(1) 目標

学校生活における問題場面を想起し、自他の認識を比較する活動を通して、自己の特性や課題を自覚したり、他者の考えに共感したりするとともに、自他の問題行動の原因や対処方法を追究したいという思いをもつことができるようにする。

(2) 評価規準

A(3年)	一般化された問題場面と自分の経験を結び付けながら、環境や状況の変化に応じて対応することや、集団での活動に協調的に参加することの必要性を自分のこととして捉えている。（心理的な安定 2-(2)）（人間関係の形成 3-(4)）
B(4年)	一般化された問題場面と自分の経験を結び付けながら、集団の中で状況に応じて自ら適切な行動を選択・調整したり、場面にふさわしい表現を自己選択したりすることの必要性に気付いている。（人間関係の形成 3-(3)）（コミュニケーション 6-(5)）
C(4年)	思いどおりにいなくても意思や要求を適切な方法で表現し、一般化された問題場面と自分の経験を結び付けながら、集団においても自分から他者とかかわることの必要性に気付いている。（心理的な安定 2-(1)）（人間関係の形成 3-(3)）
D(4年)	一般化された問題場面と自分の経験を結び付けながら、情緒の安定を図ることや多様な他者とかかわることの必要性に気付いている。（心理的な安定 2-(1)）（人間関係の形成 3-(3)）
E(5年)	一般化された問題場面と自分の経験を結び付けながら、集団での活動に協調的に参加することの必要性に気付いている。（心理的な安定 2-(2)）（人間関係の形成 3-(4)）
F(5年)	一般化された問題場面と自分の経験を結び付けながら、思いどおりにいかないときに気持ちを落ち着かせたり適切な方法で表現したりすることや、集団の中で状況に応じて自ら適切な行動を選択・調整することの必要性に気付いている。（心理的な安定 2-(1)）（人間関係の形成 3-(3)）
G(5年)	一般化された問題場面と自分の経験を結び付けながら、言葉や表情等から相手の意図や感情を読み取りその場に応じた適切な行動をとったり、手順やきまりを理解して集団での活動に協調的に参加したりすることの必要性に気付いている。（人間関係の形成 3-(2)）（4）

(3) 指導に当たって

「つかむ・見通す」過程では、OPPシートを提示することで、前時までの学習とのつながりから学習課題解決の手掛かりをつかみ、本時の学習の見通しをもつことができるようにする。

「見つめる・活動する」過程では、一般化された問題場面を文字とイラストで提示することで、認知面に課題のある子供も考えを整理しやすくするとともに、タブレット端末で操作することで、問題場面や自他の考えを比較することができるようにする。また、教師や友達との対話を通して経験を振り返ることで、自己の特性を自覚したり、友達の考えに共感したりすることができるようにする。

「振り返る・生かす」過程では、「一番大切だと思ったこと」を端的に記入することで、自分の学びを振り返るようにする。また、授業の題名化によって本時の学びを客観的に捉えることができるようにする。

(4) 本時の展開

[] 子供の意識

○ 指導の手立て

※ 評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	10	<p>1 前時を振り返り、本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 私たちは、どんなときに困ったことになってしまうのだろうか。 </div> <p>2 本時で「すること」を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> (1) 「あるある」場面を並べる (2) 比べる (3) 自分のことを話す (4) 振り返る </div>	<p>○ OPPシートを基に前時に最も大切だと思ったことを想起することで、自己の特性への関心を高めることができるようにする。</p> <p>○ 学習の手順を短い言葉で提示することで、見通しをもって活動に取り組むことができるようにする。</p>
見つめる・活動する	25	<p>3 問題場面に対する認識を比較する。</p> <p>(1) 問題場面を並べる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・ 思いどおりにいなくてカッとすることはあるけれど、先生が話しているときに話し掛けることはないよ。 ・ 悲しいことがあると一日やる気がなくなるな。 </div> <p>(2) 自他の考えを比較する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・ 集中力が続かなくて落ち着かないことがあるという人が多いみたい。ぼくもそういうところがあるな。 ・ ぼくと友達とでは、違いがあるんだな。 </div> <p>(3) 自分の経験と結び付けて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・ ぼくは、発表したいのに当ててもらえなくて、教室を飛び出したことがあるよ。 </div>	<p>○ タブレット端末上でカードを並べ替えることで、認知面に課題がある子供も考えを整理したり、友達の考えと比較したりしやすいようにする。</p> <p>○ 教師や友達との対話を通して経験を振り返ることで、自己の特性を自覚することができるようにする。</p> <p>※ 問題場面と経験を結び付けながら個々の課題について考え、課題改善への意欲を高めている。(発言・OPPシート)</p>
振り返る・生かす	10	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・ ぼくは、みんなよりよく怒っているんだ。 ・ 今日の授業の題名は、「困ったこと探し」にしよう。 </div> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 人それぞれ困ることは違う。 原因を探れば、もっとすてきな自分に近づけよう。 </div>	<p>○ 「一番大切だと思ったこと」の記入や授業の題名化をすることで、本時の学びを客観的に振り返ることができるようにする。</p> <p>○ 一人一人の気づきを称賛することで、自己の課題の外在化への見通しをもつことができるようにする。</p>